

www.germany.travel

Supported by:



on the basis of a decision
by the German Bundestag



感動のドイツ再統一

観光の国ドイツにおける、25のスリリングな視点

エアフルト マクデブルク

ベルリン

ポツダム

ドレスデン

自然

壁の崩壊

国境消滅

グリーンベルト

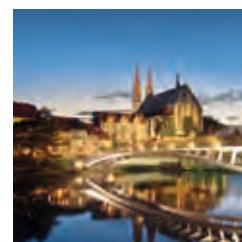
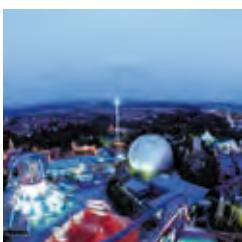
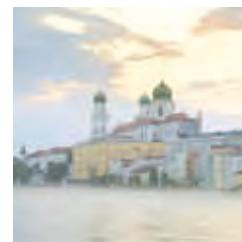
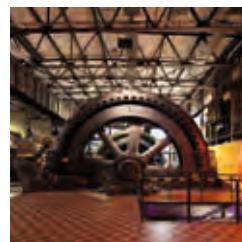
ドイツ再統一

シュヴェリーン

文化

未発見

ライプツィヒ



感動のドイツ再統一

観光の国ドイツにおける、25のスリリングな視点



観光の国ドイツにおける、25のスリリングな視点 —
あなたも個人的な“視点”を見つけて、私たちと共有してください：
ハッシュタグ #germany25reunified を用いて、フェイスブックや
ツイッター、インスタグラムに投稿してください。



はじめに





ペトラ・ヘードルファー、
ドイツ観光局 (GNTB) CEO
壁の崩壊／ドイツ再統一25周年に際して

読者の皆様へ

25年前の「ベルリンの壁」の崩壊は、ドイツの歴史において最も素晴らしい瞬間に数えられますが、決してそれだけにとどまりません — 東西ドイツの統一は、ツーリズムにも大きな利益をもたらしたのです。このような歴史的な大事件を通して、数多くの文化的な観光名所や魅力的な自然風景を、新たに得た国民が他にあるでしょうか？

1989年以降のドイツは、ひとつの国家として発展してきたわけではありません。ドイツの再統一は、世界的な人気を集める旅行目的地として、地歩を固める礎になったのです。現在では、たとえば38件の世界文化・自然遺産と15の国立公園、15か所の生物圏保護区が、観光の国ドイツの魅力を高めています。1993年の共同統計との比較では、外国からの旅行者の宿泊件数は、ほぼ倍増しました。

壁の崩壊から25年を経た今、『観光の国ドイツにおける、25のスリリングな視点』に皆様をご招待します。この25年間には、ツーリズムの分野においても、様々なアトラクションが生まれました。東部でも西部でも、あるいは南部でも北部でも — ドイツは皆様をお待ちしています！

壁の崩壊から25年を経た観光の国ドイツで、自分自身の“視点”を見つけてください — そして、[#germany25reunified](#) というハッシュタグを用いて、フェイスブックやツイッター、インスタグラムに投稿し、私たちと共有してください。皆様のドイツ訪問を、そして個人的な“視点”を楽しみにしています！

心をこめて

Petra Kechta



25

1 ホットスポット・ベルリン ページ 10 - 13

2 歴史の証人となった塔 ページ 14 - 17

3 ドレスデンの聖母教会 ページ 18 - 21

4 ライプツィヒ「光の祭典」 ページ 22 - 25

5 クリエイティブ・ジャーマニー ページ 26 - 29

6 バウハウス ページ 30 - 33

7 ハイニツヒ国立公園 ページ 34 - 37

8 水の楽園シュプレーヴァルト ページ 38 - 41

9 グリーンベルト ページ 42 - 45

10 ルター ページ 46 - 49

11 リューゲン島 ページ 50 - 53

12 ユネスコ世界自然遺産ワッデン海 ページ 54 - 57

13 ハンブルクのハーフェンシティ ページ 58 - 61

ページ 62 - 65 プレーマーハーフェンの気候館&ドイツ移民センター	14
ページ 66 - 69 アウトシュタット	15
ページ 70 - 73 フランクフルトのスカイライン	16
ページ 74 - 77 ルール地方	17
ページ 78 - 81 ワインとヴィノテーク	18
ページ 82 - 85 ヨーロッパパーク	19
ページ 86 - 89 フェルクリンゲン製鉄所、産業文化	20
ページ 90 - 93 ドナウ川	21
ページ 94 - 97 健康 — ウェルネス・メイド・イン・ジャーマニー	22
ページ 98 - 101 アクティブ休暇	23
ページ 102 - 105 ショッピング	24
ページ 106 - 109 新たな隣人	25

感動のドイツ再統一

忘れがたい旅を約束する、いくつもの理由

再統一によりドイツは、旅行目的地として持続的なメリットを得ることになりました。文化・自然ツーリズムにおける、魅力的な観光スポットが、再び活気づいたり、新たに生まれたのです。このマガジンでは、壁の崩壊から25年の間に観光の国ドイツに生まれた、新たな場面や観点を「25の視点」という形で紹介します。ところで、壁はどのようにして築かれ、どのようにして崩壊したのでしょうか？

1 ブランデンブルク門 — ドイツ再統一の象徴

壁崩壊までの略年表

- 1961年 すでに12年来分割されていたドイツにおいて、この年の8月13日朝に国境警備隊員が「ベルリンの壁」の建設を始める。
- 1989年 東ドイツ (DDR) で市民運動が起こり、ライプツィヒに始まる「月曜デモ」では、市民たちがより多くの権利を要求する。
- 1989年 ハンガリーの国境警備兵が、オーストリアとの国境地帯で鉄条網を撤去する。東ドイツで、外国旅行の権利を要求する声が大きくなる。
- 1989年 夏に状況がエスカレート — 東ドイツ国民が、ワルシャワやプラハ、ブダペストのドイツ連邦共和国 (西ドイツ) 大使館を占拠する。10月9日にライプツィヒで7万人が平和裏にデモを行い、東ドイツ国民に外国旅行の権利が認められる。そして11月9日夜、壁が崩壊する。
- 1990年 ドイツは再び統一され、10月3日は「ドイツ統一の日」として国民の祝日となる。

25

25の視点:魅力的で、驚異的で、感動的 — そして、いずれも一見の価値があります

かつての国境が消滅して25年、観光の国ドイツには、全く新しい視点が生まれました。これら25の視点は、いずれもスリリングな旅行体験を象徴するものであり、新たに見いだされた目的地への興味をかきたてるものです。

壁の崩壊から25年を経て、観光の国ドイツは極めて多様な姿を見せています:

- ・ **ベルリン** — 壁に分断されていた都市として、さらには新たな首都や国際的なホットスポットとして、中心的な役割を担っています。手で触れるようにして、歴史を体験できる場所です。
- ・ **デザイン&建築** — 革新的な造形を生み出し、観光の国ドイツに絶え間ない発展をもたらしている存在です。
- ・ **産業地帯から文化地域へ** — ひとつの地方がどれほどまでに変わるかを、2つのユネスコ世界遺産が印象的な形で示しています。
- ・ **類い稀な自然体験** — のどかな水郷・森林地帯が、観光の国ドイツに全く新しい視点を創り出しています。
- ・ **すべての人のためのツーリズム** — ドイツの都市&地域の多くが、行動や移動に制限がある人々に、品質検査をクリアした、素晴らしいツーリズム体験を提供しています。
- ・ **国境を越えたプロジェクト** — 観光の国ドイツと東側近隣諸国との間では、すでに共同プロジェクトが実現しています。
- ・ **文化** — 壁の崩壊から25年を経た現在、このテーマがいかにバラエティに富むものであるかは、ドイツにおける天然記念物や文化記念物の豊富さが示しています。
- ・ **アクティブレジャー** — 各種アクティビティからショッピング、ウェルネスまで、“メイド・イン・ジャーマニー”のトッププログラムを用意しています。
- ・ **都市ヴィジョン** — ドイツの大都市では、中世から現代までの様々な時代に行われた、素晴らしい都市計画が、至る所で都市景観を特徴づけています。

観光の国ドイツで、25のスリリングな視点を体験し、ウェブサイト www.germany.travel で、さらに多くのことを識ってください。



連邦議会議事堂のドーム





視点 1

ホットスポット・ベルリン — 再統一が様々な表情を見せているところ。

壁崩壊という画期的な事件を伝える、ベルリンの写真や映像は、世界中を駆け巡りました。それから25年、ベルリンはドイツの首都となり、歴史や文化、創造活動におけるマイルストーンが、魅力的な形で組み合わせられています。たとえば、連邦議会議事堂やブランデンブルク門は、世界的にみても、ひとつの国家及び国民の分断と統一の象徴になっているのです。このような大局的な歴史とは別に、シュプレー河畔の都市は、ファッション&アート・シーンにおいて、クリエイティブな刺激をもたらす場所に発展してきました。

次のウェブサイトでは、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel

ドイツの歴史が**芸術作品**になるところ。



1

ベルリンは歴史の授業であり、パーティ会場であり、インスピレーションでもあります。かつて分断されていた都市は、絶えず新たな姿を見せ、その結果非常にインテンシブな印象をもたらしているのです。そこには、全長1.3キロメートルにおよぶイーストサイド・ギャラリー（野外美術館としてのベルリンの壁）のような、壁の崩壊以前の刺激的な遺産もあります。

緊張感のあるコントラスト

ベルリンの開放的な文化風土の中で、新たなトレンドが生まれ、創造的なアイデアが育まれています。ルネサンスから、擬古典主義やバウハウスを経て、アヴァンギャルドに至るまで — ここでは、建築における緊張感のあるコントラストが、都市景観を特徴

づけています。このシュプレー河畔の都市には、ベルリン宮殿の再建のような、巨大プロジェクトが計画されている場所があるかと思うと、ティーフェンヴェルダール区のように、緑の田園風景が広がっている場所もあるのです。

ヴィジョンに満ちたプロジェクトとトップイベント

テンベルホーフ空港は、壁が崩壊するまでは自由の象徴でした。かつての飛行場を利用すべく、広大な土地が緑の公園に変えられています。これは、都市デザイナーだけでなく一般訪問者にも刺激を与えるような、興味深いプロジェクトです。そして、毎年2月に開催されるベルリナーレ（ベルリン国際映画祭）やベルリン・ファッションウィークといったトップイベントが証明しているように、ベルリンは昼夜を問わず人々を誘っているのです。



数字で見るベルリン

ベルリンに16,000ヘクタールの森林と3件のユネスコ世界遺産があると、誰が思うでしょうか？そして、180ものミュージアム&記念施設と並んで、800以上のデザイナーやブランドが、首都ベルリンのクリエイティブ・シーンを豊かにしていることは？エピキュリアンのためのメモ:ここでは、3つのオペラハウスが耳を、計14の星付きレストランが舌を楽しませています。

純粋な象徴として

ベルリンは、総面積892平方キロメートルに達する、ドイツ現代史の野外博物館です — ブランデンブルク門や連邦議会議事堂、国境検問所チェックポイント・チャーリーなどは、再統一の象徴として世界的に知られています。



旅のヒント

ベルリンの中心部にある博物館島は、ユネスコ世界文化遺産に登録されている、ヨーロッパ屈指のミュージアム複合体です。古典古代とコントラストになるものをお探しなら、有名なナイトライフ — たとえばクラブ「ベルクハイン」など — はどうでしょう？

-
- 1 連邦議会議事堂
 - 2 ブランデンブルク門 / 3 イーストサイド・ギャラリー
 - 4 ボーデ博物館 / 5 シュプレー川のモレキュール・マン
-



さらなる情報は:

www.germany.travel/berlin





かつての国境監視塔、ポツダム広場

視点 2

ドイツ再統一 — 歴史の証人となった塔

ドイツの分断と再統一は、世界を震撼させた、2つの事件が原因となりました：すなわち、1961年8月13日の壁建設と1989年11月9日の壁崩壊です。当時の写真や映像は、世界中を駆け巡りました。今日では遺跡が、約30年の分断を伝えています。 そのうちのひとつが、ポツダム広場にある旧東ドイツの国境監視塔です：この手のものとしては、現存する唯一の国境監視塔であり、個人のイニシアティブによって修復されました。ひとつの国家とその国民の歴史を物語る存在として、たくさんの人々を惹き付けています。

次のウェブサイト、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel



再統一以前への旅。

1



「ゲートを開ける、ゲートを開ける！」— 1989年11月9日夜、東ドイツの役人が深夜前に国境を開放するまで、人々はシュプレヒコールをあげ続けました。分割されたドイツでの生活や国境に接しての暮らしは、様々なガイドツアーで追体験できます。

ベルリンにおける壁の残骸

首都ベルリンでは、今でも多くの場所で、壁の一部や痕跡を目にできます。“戒めの美術作品”としてのイーストサイド・ギャラリー—から、連合国の検問所チェックポイント・チャーリー、さらには「記念の石」まで— 分断は“生きた歴史”なのです。

2



2014年11月7日～9日には、壁崩壊25周年を記念して、スペクタクルなイベントが行われます：かつての壁に沿って、ベルリン市街地を縦断するように、ヘリウム入りの風船数千個がライトアップされるのです。

東ドイツに関する博物館

東ドイツの日常生活を紹介する、興味深いミュージアムがいくつもあります：代表的なものとしては、ライブツィヒの東ドイツ回廊博物館やベルリンのDDRミュージアム — ベルリンで最も入場者の多い博物館のひとつ — などが挙げられます。見学者を魅了しているのは、ミュージアムのインタラクティブなコンセプトによる、「手で触れられる歴史」です。



上から360°の眺め

アレキサンダー広場のベルリン・テレビ塔では、再統一から25年の首都を見下ろす、素晴らしい展望を満喫できます。全面改修されたテレビ塔には、旧東ドイツのフィーリングと最新のテクノロジーが同居しています。

-
- 1 ベルナウアー通りのビジターセンター
 - 2 チェックポイント・チャーリー
 - 3 ポツダム広場 / 4 ベルリンの壁の道 / 5 DDRミュージアム
-



旅のヒント

ポツダム広場には、おそらくは最も古い“分断の証拠”が建っています — コンクリートで造られた、オリジナルの国境監視塔です。この塔は、荒廃した状態にあったものを市が引き取り、個人のイニシアティブによって修復されました。過去の痕跡は、「ベルリンの壁の道」でも辿ることができます。このサイクリングルートは、ベルリン市街地を縦断するもので、一部区間ではかつての国境線がはっきりと分かります。歴史の特別授業といった趣があるルートです！

さらなる情報は：

www.germany.travel/berlin-wall





“エルベ川のフィレンツェ”ドレスデン

視点 3

ドレスデンの聖母教会 — バロック建築の傑作にして再統一の象徴。

1726～1743年に建設されて、1945年に破壊され、1994年から再建されました。25年前のドイツ再統一と聖母教会の再建は、分かちがたく結びついています。おそらくはアルプス以北のヨーロッパで最も有名な教会は、世界中の60万人以上の募金によって、再建が可能になったのです。2005年には、砂岩を用いた記念碑的な建物が、華々しく再公開されました。今日の聖母教会は、ドイツ再統一の象徴であり、市民参加の顕著な例なのです。

次のウェブサイトでは、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel



ドレスデン — エルベ河畔の総合芸術品。

聖母教会 (フラウエン教会) や王宮、ツヴィンガー宮殿、ゼンパー・オペラ、エルベ宮殿群 — ザクセン州の州都は、様々な時代に造られた、見事な建築物に恵まれています。それどころか、最も豪華なものに数えられる建築様式が、ドレスデンの名を冠しています:すなわち「ドレスデン・バロック様式」です。

自然と文化の完璧なハーモニー

ドレスデンは、感動を約束する都市です! この都市の美しい景観が“エルベ川のフィレンツェ”と称えられているのは、決して理由のないことではありません。また、ドレスデン美術館に含まれる14のミュージアムのような、ハイレベルの文化施設も、ドレスデンの豊かなミュージアム・シーンを構成する一部に過ぎないの

です。たとえばツヴィンガー宮殿のように、他にも必見のものがあります。この宮殿には、数世紀の時間をかけて、絵画館や陶磁器コレクション、図書館、動物学博物館などが設けられてきました。

素晴らしい場所でのクリスマスマーケット

1434年以来の伝統がある、ドイツ最古のクリスマスマーケットが、とてもきれいで歴史的な重要性も高い広場 — 聖母教会の前 — に立ちます。毎年アドベント (待降節:クリスマス前の約4週間) の時期に、歴史的で伝統的な雰囲気、世界中から観光客を集める存在です。





サウンド・オブ・ドレスデン

キーワードになるのはゼンパー・オペラです：盛期イタリア・ルネサンス様式による壮麗な建物は、世界で最も美しいオペラハウスに数えられています。しかも、ドレスデンの音楽ハイライトは、これだけではないのです。エルベ河畔の大都市は、シュターツカペレやフィルハーモニー管弦楽団といった有名オーケストラでも、存分に耳を楽しませてくれます。

旅のヒント

王宮内に設けられたヨーロッパ最大級の宝物庫「緑の丸天井」に、シーズンはありません。 その一方で、ドレスデン音楽祭は春に、ゼンパー・オペラ舞踏会は2月に、ヨーロッパ最大規模のオールタイム・ジャズフェスティバル「ドレスデン・インターナショナル・ディキシーランド・フェスティバル」は5月に開催されます。

エルベ川に沿って……

世界最古の蒸気船の乗客として甲板の上から、エルベ・サイクリングロードでサドルの上から — ドレスデン周辺の低湿地を回ったり、市街地の見事な建築を鑑賞したら、日帰りの距離にあるザクセン・スイスで、変化に富んだコントラスト・プログラムを楽しんでください。

-
- 1 ドレスデンのシュトリーツェルマルクト
 - 2 ツヴィンガー宮殿、陶磁器コレクション
 - 3 ゼンパー・オペラ / 4 緑の丸天井
-

さらなる情報は：

www.germany.travel/saxony



光の祭典



視点 4

ライブツィヒの「光の祭典」 — イベントとしてのドイツ再統一。

1989年の壁崩壊は、41年に及ぶドイツ分割に終止符を打ちました。世界の流れを変えた出来事を記念して、数多くの祝賀行事が開催されます。中でも傑出したイベントに数えられるのが、ライブツィヒの「光の祭典」です。これは、1989年10月9日のデモに因むものです：この日、ライブツィヒのデモに参加した7万人以上が、「我々は人民だ」というシュプレヒコールをあげながら、SED独裁体制の国家公安局員と対峙しました。この他にも国内の多数の場所で、壁の崩壊を祝う、様々な記念イベントが行われます。

次のウェブサイトでは、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel



平和**革命**の舞台。

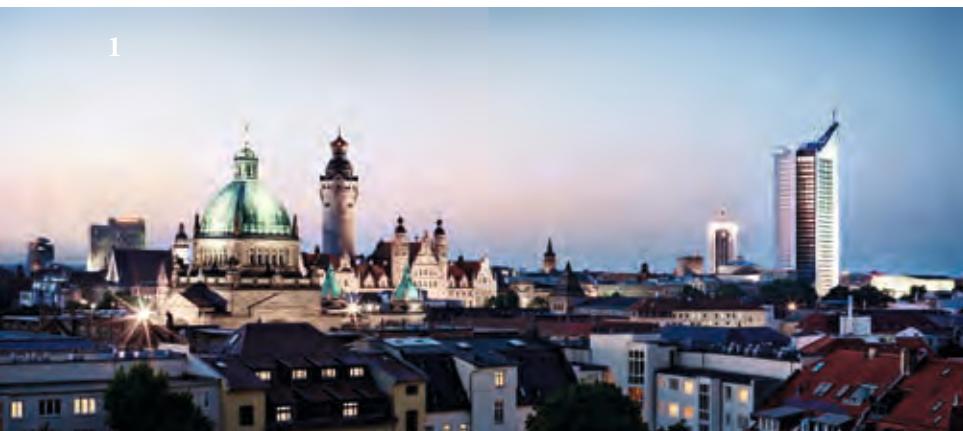
平和革命で有名なライブツィヒは、重要な音楽都市としても知られています。音楽におけるライブツィヒの名声は、とりわけバッハの業績によるものです。

世界的に有名な少年合唱団

ライブツィヒのトーマス教会は、ヨハン・ゼバスティアン・バッハの活動の場でした。当時のオルガンが残っていなかったので、2000年に“バッハ・オルガン”が備え付けられ、現在ではバッハの作品を完全な形で演奏できるようになっています。このトーマス教会は、当時から今日に至るまで、世界的に有名なトーマス教会合唱団 — ドイツ最古の少年合唱団のひとつ — の本拠地です。ヨハン・ゼバスティアン・バッハが、1723年から1750年まで、27年にわたって率いたトーマス教会合唱団は、2012年に創立800周年を祝いました。

バッハの足跡を辿って

トーマス教会の中庭に面するバッハ資料館（バッハ・アルヒーフ）は、バッハの生涯と業績を対象とするものです。この資料館の活動は、毎年 — 多数のコンサートを伴う形で — 開催される、バッハ音楽祭の基礎を成しています。バッハ博物館では、この有名な音楽家の生涯を、より詳しく、そしてアクティブに識ることができます。



グラッシー博物館

ライプツィヒのグラッシー博物館は、市内の商人フランツ・ドミニク・グラッシーに因んで名付けられました：この美術館の最初の建物を、気前よく遺贈した人物です。今日のグラッシー博物館には、ライプツィヒ民俗学博物館と工芸美術館、ライプツィヒ大学付属楽器博物館が入っています。



旅のヒント

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ、ゲオルク・フィリップ・テレマン、フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ、ロベルト&クララ・シューマン — 彼らは、ライプツィヒの音楽シーンを特徴づけた、“音楽界のスーパースター”の一部に過ぎません。「ライプツィヒ楽譜ルート」で、音楽都市ライプツィヒを体験してみてください。ザクセン州のラウジッツ湖沼地帯は、褐炭露天掘りの跡地を利用して、人工的に造られた湖沼地帯です。シュラーベンドルフ・アム・ゼーのマリーナでは、ウォータースポーツやハイキング、サイクリングなど、様々なレジャーが楽しめます。

-
- 1 ライプツィヒ / 2 ラウジッツ湖沼地帯
 - 3 ニコライ教会、月曜デモの終点
 - 4 トーマス教会とバッハ記念碑 / 5 ライプツィヒ楽譜ルート
-

さらなる情報は：

www.germany.travel/leipzig





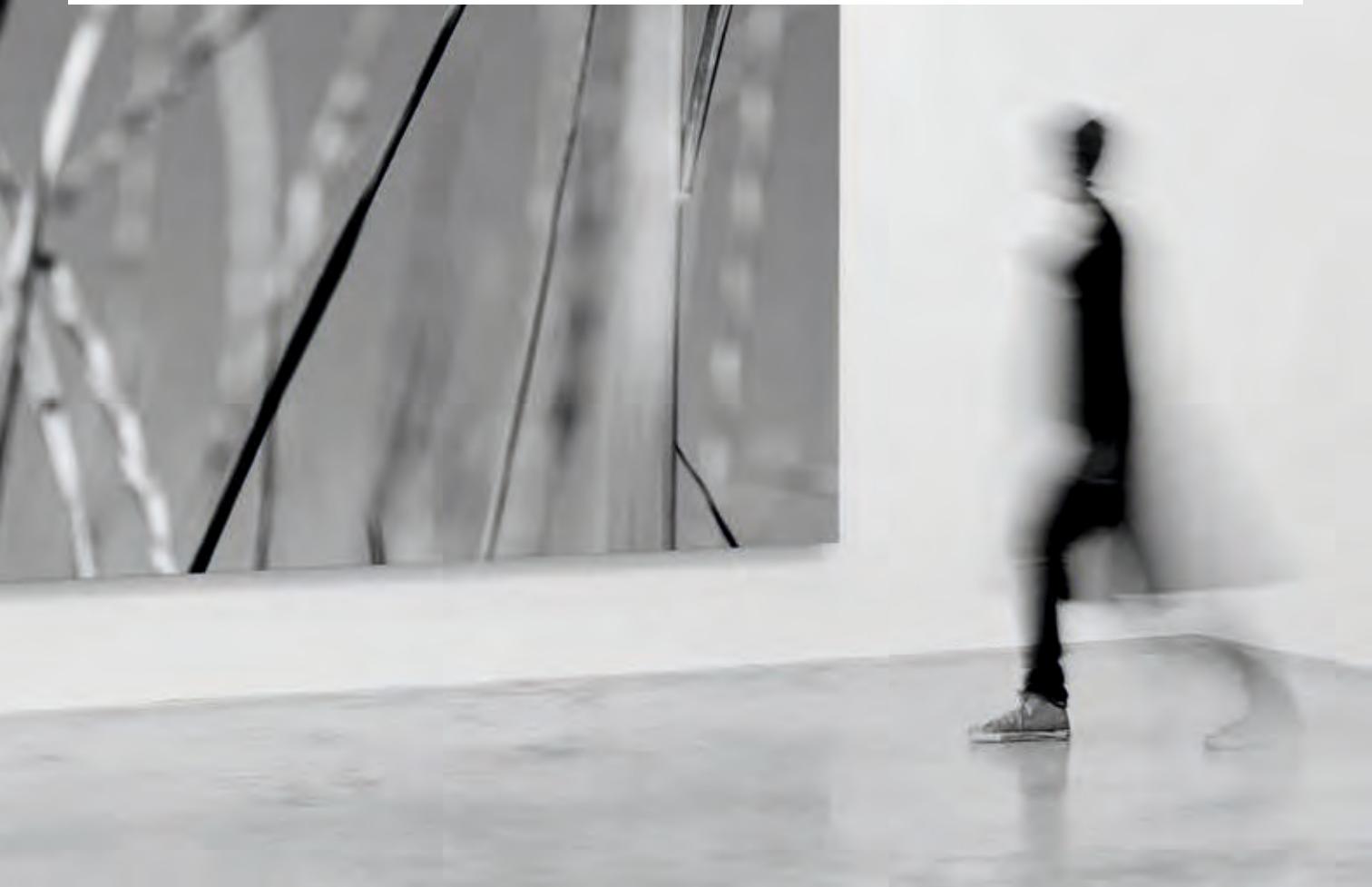
木綿紡績工場、ライブツィヒ

視点 5

クリエイティブ・ジャーマニー — 国境なき芸術家たち。

ドイツ再統一から25年を経た観光の国ドイツには、革新的で成長し続ける文化&クリエイティブ産業が存在します。世界的に有名な「メイド・イン・ジャーマニー」には、「クリエイテッド・イン・ジャーマニー」も含まれているのです。画家や音楽家、建築家、さらには美術工芸や国際的な文化イベントが、観光の国ドイツにおける創造活動のポテンシャルになっています。

次のウェブサイト、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください: www.germany.travel



創造性を育む土壌。

観光の国ドイツなら、多くの都市でクリエイティブな風土を体験できます:たとえば、ライプツィヒやベルリンには、世界レベルの芸術家が住み、素晴らしいイベントが開催されています。



ライプツィヒの木綿紡績工場

かつてヨーロッパ最大の規模を誇った木綿紡績工場（シュピネライ）が、21世紀初頭に文化プロジェクトや芸術活動の拠点となりました。たとえば、ネオ・ラオホによって世界的に有名になっ

た、ライプツィヒ派絵画の原点もここに 있습니다。この“創造拠点”は、様々な芸術分野にインスピレーションを与えてきました:ここには100の芸術アトリエと11の画廊、工房が設けられ、建築家やデザイナー、宝飾&ファッションクリエイター、国際舞踏・振付センターなどが拠点を置いているのです。

ドレスデン出身の巨匠

豊かな創造性で、生存する画家としては世界最高額の作品を生み出している人物 — それがゲルハルト・リヒターです。ドレスデン出身のリヒターの作品は、たとえばユネスコ世界遺産に登録されている、「ベルリンの博物館島」などで目にできます。

ベルリン・ファッションウィーク

観光の国ドイツは、ホットスポットであるベルリンを中心に、トップレベルのファッション拠点へと躍進を続けています。その広告塔になっているのが、旧テンペルホーフ空港で — 関連見本市ブレッド&バターと共に — 年2回開催されている、ベルリン・ファッションウィークです。

ドイツのアカデミー賞「金熊賞」

世界的な大ヒット作や実験映画：ベルリナーレ（ベルリン国際映画祭）は、スターの競演によるゴージャスな作品と並んで、芸術家肌で意欲的な監督が祝われる、類い稀な映画祭です。毎年2月のベルリンでは、国際的な映画人たちが主役となり、広く話題になるようなプレミアが上映されます。

-
- 1 グラフィティ、ベルリン / 2 アート・ケレン、ケレン
 - 3 ZKM、カールスルーエ
-

旅のヒント

カールスルーエのアート&メディア・センター（ZKM）は、世界でも類を見ない文化施設です。これは、現代美術館やメディア美術館、映像メディア研究所、音楽および音響研究所、メディア・教育・経済研究所などが統合された施設であり、広々としたスペースでは、イベントやガイドツアーが開催され、公開コレクションやメディアテークが設けられています。



さらなる情報は：

www.germany.travel/creative



視点 6

バウハウス — 世界が理解した造形表現

指針となるデザインを好む人々は、25年前のドイツ再統一以来、新たな目的地を見いだしました：それがバウハウスの“首都” デッサウです。ヴァルター・グロピウスが設立した造形大学は、古典的近代におけるアヴァンギャルドとしての痕跡を — ミュージアムや「親方の家」という形で — この地に残しています。

さらに、バウハウス発祥の地ワイマール（ヴァイマル）やベルリン、シュトゥットガルトでも、バウハウス関連の博物館やジードルング（集合住宅）を通して、なぜ立方体の機能主義建築物が、今日なお世界中のデザイナーたちの手本となっているか垣間見ることができるのです。

次のウェブサイトで、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel

A low-angle, upward-looking photograph of a modern skyscraper with a glass facade. The building's structure is composed of dark, vertical and horizontal lines forming a grid of windows. The sky is a pale, clear blue. At the bottom of the frame, a dark, rectangular sign features the word 'AUHAUS' in large, white, sans-serif capital letters. The perspective creates a sense of height and architectural scale.

AUHAUS

テッサウ・ハウハウス

画期的な産業文化。



Dessauとベルリン、そしてワイマール・バウハウス博物館 — これらは、ドイツで最も重要なバウハウスゆかりの地です。観光の国ドイツは、これらの場所によって、建築と美術、デザインの分野における、世界有数の拠点となったのです。

Dessauのバウハウスと「親方の家」

ワイマールと Dessauのバウハウス関連施設は、建築における“バウハウス様式”を代表する存在です。世界初の造形大学に数えられるバウハウスには、当時の最高レベルの建築家や芸術家

が集結していました。 Dessauのバウハウス校舎と「親方の家」は、教授 — バウハウスにおける親方 — たちの労働と生活の場であり、直方体のデザインや機能的な装備は、バウハウスの理想を体現しています。

この「親方の家」が、 Dessauのバウハウス校舎と共に、ユネスコ世界文化遺産に登録された頃には、すでにヴァルター・グロピウスの設計による建物が、世界的な注目を集めていました。様々な常設展が、1932年以降のバウハウスの歴史と発展を紹介しています。

ワイマールのバウハウス

ワイマール古典主義財団が運営する、ワイマールの新たなバウハウス博物館は、類似稀なコレクションを擁しています：国立バウハウスの歴史や影響との関連で、バウハウスの全ジャンルを網羅する、1万点以上を所蔵しているのです。傑出した展示品としては、ファイニンガーやクレーの絵画、そしてバウハウス・デザインによる日用雑貨と家具が挙げられます。

バウハウスで席に座る

ミース・ファン・デル・ローエのようなバウハウス関係者は、建築上の傑作に相応しい家具についても考えを巡らせていました。こうして彼は、後脚2本を取って弾力性を持たせた、カンティレバーチェア（片持ち椅子）を開発したのです。

旅のヒント

バウハウスに興味がある人も、マクデブルクでは神聖ローマ帝国皇帝である“オットー大帝”の足跡を辿り、大聖堂を訪れます。伝説に包まれた「ネブラの天体板」は、石器時代の魔術師が天空の動きを読むのに用いていたものです。今日では、ハレ／ザーレの州立先史博物館で、世界中からの訪問者を魅了しています。ベルリンのバウハウス資料館・博物館は、バウハウスの歴史と作品に関する、世界最大規模のコレクションを所蔵しています。



-
- 1 マルセル・ブロイヤーのパイプ椅子 B3 / 2 「親方の家」、デッサウ / 3 「ネブラの天体板」、紀元前1600年頃
 - 4 マクデブルクの大聖堂 / 5 ワイマールのバウハウス博物館
-



さらなる情報は：

www.germany.travel/berlin



さらなる情報は：

www.germany.travel/weimar



さらなる情報は：

www.germany.travel/saxony-anhalt





ハイニッヒ国立公園の眺め



視点 7

ハイニツヒ国立公園 — ドイツの心臓部にある原生林。

連続するものとしてはヨーロッパ最大のブナ林であり、数十年にわたって軍事上の立入禁止区域になっていました。壁の崩壊から25年を経た今日、ドイツで最も新しいユネスコ世界自然遺産に含まれるハイニツヒ国立公園は、樹木の他にも、キノコや苔、さらには珍しい動物 — たとえばヨーロッパヤママネコやナベコウなど — が生息する、「野生の森」なのです。国土の31パーセントを森林が占めるドイツにおいても、この国立公園は特別な自然体験といえます。

次のウェブサイトで、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel

樹冠の中で、無限の自由を。

神秘と体験に満ちた森林：ハイニツヒ国立公園は、テューリンゲン州の西北部 — すなわちドイツの中央部 — に広がっています。州都エアフルトから1時間ほどの場所では、新たに設けられたハイニツヒ・ラントヴェークをはじめとする、全長2.5～20キロメートルのハイキングロードが、発見の旅に誘っているのです。

ハイニツヒ国立公園をバリアフリーに体験する

ウェブサイトから駐車場、バウムクローネン小道、さらには多数のホテルまで：ハイニツヒ国立公園はバリアフリーですし、訪問者の個別の要求にも極力対応しています。バウムクローネン小道へのエレベーターは、行動に制限がある方々に、バリアフリーなアクセスを提供するものです。



バウムクローネン小道ようこそ

類い稀な眺望を楽しみながら散歩：バウムクローネン（樹冠）小道は、ブナの梢を真横に見られる、高さ44メートルで全長546メートルのコースです。“原生林の屋根の上”で、荘厳な瞬間を体験できます。



渡り鳥や“渡り鳥になりたい人”のために

ハイニッヒ国立公園では、道が目的地です。果てしなく続くブナ林の中や周囲に、巡回ハイキングコースが設けられています。何か特別な観光スポットを目にしたい人には、樹齢1000年の「ベッテルアイヒェ」がおすすめです。また、ガイドツアーに参加すれば、この地域のヤマネコや鳥の声、植物などについて、貴重な情報をたくさん得られます。

ハイニッヒ国立公園の旅のヒント

自然豊かなハイニッヒ国立公園からさほど離れていない場所では、文化的なハイライトが待ち受けています：具体的には、ユネスコ世界文化遺産のヴァルトブルク城、アイゼナハのバッハ・ハウス、ゲーテやシラーといった文豪たちが傑作を著した文化都市ワイマール、そして州都エアフルトです。

1 バウムクローネン小道 / 2 バッハの胸像、アイゼナハのバッハ・ハウス / 3 エアフルトの大聖堂



樹木の他にも

この生物圏保護区の見どころは、樹木だけではありません：たとえば、ミュールハウゼンにある通行可能な市城壁、バート・ランゲンザルツァの魅力的なバラ園、そして修道院が村を形成しているフォルケンローダなどが挙げられます。

さらなる情報は：

www.germany.travel/thuringia



視点 8

シュプレーヴァルト — ミサゴヤカーンで有名な“水の楽園”。

シュプレーヴァルト生物圏保護区の魅力溢れる湖沼地帯では、場所によっては郵便物が、今日なおカーン（平底の木造舟）で配達されています。また、ここでは有名なシュプレーヴァルト・キュウリが栽培されています。堂々たる外観をした、ニーダーフィノウの船舶昇降機（ボートリフト）は、この手のものとしてはドイツ最古の現役施設です。シュプレーヴァルトは、水際や水中のものに興味がある、あらゆる人にとってエルドラド（黄金郷）のような場所です。壁の崩壊から25年を経た現在、この生物圏保護区も20周年を祝います。

次のウェブサイトで、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel

オリジナルのシュプレーヴァルト・キュウリ



1



2



ベルリンにも近い 文化的景観。

ユネスコ生物圏保護区シュプレーヴァルトは、ベルリンから南東へ100キロメートルほどの距離にあります。ここは、水鳥や植物にとって理想的な環境ですし、人間が休暇を過ごすのにもぴったりの場所です。

神秘的な“水辺のパラダイス”

カヌー・ツーリングやサイクリング、ハイキングといったアクティビティから、オジロワシやミサゴ、ツル、カワウソなど希少動物の観察まで — ここでは、訪問者に様々な可能性が開かれています。

シュプレーヴァルトの町と土地と川

シュプレーヴァルトの一角には、西スラブ語群の言葉話し、文化的な風習を受け継ぐ、約6万人のソルブ人が生活しています。カーンと呼ばれる、この地域に典型的な舟で、のんびりと旅すると、彼らが身近に感じられるようになるはず。もっとも、シュプレーヴァルトにも陸上の見どころは存在します。たとえば、シュトラウピッツのシンケル教会には、オリジナルの内装が完全な形で残っており、擬古典主義建築の真珠といった趣があります。

有名で人気も高い:シュプレーヴァルト・キュウリ

様々な賞に輝いた映画作品『グッバイ・レーニン!』(2003年)を通して国外にも広く知れ渡った、酢漬けのキュウリは風味豊かな特産品です。そして「キュウリ・ハイキングロード」が、この味覚に文化財としての価値があることを証明しています。

シュプレーヴァルトの旅のヒント

すでに言及したカヌー・ツーリングの他に、シュプレーヴァルトの2つの町リュッベンとリュベナウの観光もおすすめです。同様に興味深いのが、「復活祭の騎馬行列」は、少数民族であるソルブ人の、色彩豊かな伝統行事です。

- 1 シュプレーヴァルトでカヌー / 2 シュプレーヴァルトの家
- 3 ソルブ人のイースター・エッグ



さらなる情報は:

www.germany.travel/brandenburg





かつての監視塔

視点 9

グリーンベルト — ドイツ再統一が自然体験に。

珍しい蘭の花や絶滅寸前の動物を目にできるとすれば、どこだと思いませんか？ おそらくは、統一ドイツの中央部を貫く、グリーンベルトに沿ってです。25年前まで“鉄のカーテン”が2つの国家体制に分断していた場所は、今日ではヴィジョンに満ちた場所になっています：この全長1400キロメートルにも及ぶビオトープには、絶滅したと考えられていたものを含む、5200種の植物や動物が生息しているのです。時間をかけてサイクリングやハイキングを楽しむのにぴったりの場所です。次のウェブサイト、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel



1400キロメートルの種多様性とアクティブ休暇。

国境だったのは過去のことです。今日では、類い稀な自然を体験できます。このグリーンベルトは、ドイツの歴史を辿る長距離ツアーにぴったりの条件を備えています — 徒歩で、自転車で、あるいは馬の背に揺られて。



グリーンベルトの歴史

総面積8000平方キロメートルに及ぶ、ドイツの自然保護プロジェクトは、再統一直後から熱心に進められました：その結果、現在ではバルト海沿岸の町トラーヴェミュンデからバイエルン州の町ホーフまで、1本の連続したグリーンベルトが存在します。

至る所にグリーンベルトが

グリーンベルト上の各地方は — とりわけ典型的な名物料理と豊かな郷土色で — 食欲をそそります。グリーンベルトを識るのに一番良いのは、まずお気に入りの場所を見つけることです：たとえば、ハルツフォアラント地方でサイクリング、ヴェントラント地方で乗馬、そしてフランケン地方の名物料理が食べられるホーフに宿泊、といった具合です。

観光名所が右にも左にも

エルベ河畔の原生湿原のように、風景が魅力的な区間、おもちゃの町ゾンネベルクやフェーングロツテ（妖精の洞窟）の町ザールフェルトといった観光地 — グリーンベルトを通ると、左右に様々なものが見え、いろいろな体験ができます。



2

今では目配せも可能

信じられないことですが、ほんの小さな村も1989年まで東西ドイツ間の国境に分断されていました。高さ3.4メートルの壁が、人口50人の村メドラロイトを縦断していたのです。当時は、この壁を挟んで目配せすることさえ禁じられていました。

生きた記念碑

ドイツ再統一から25年経た今日、かつての国境沿いに、植物が貴重な生活圏を奪還しました。とはいえ、たとえば監視塔や記念館といった、当時の遺産を徒歩や自転車で辿ることもできます。分断する国境が、結びつける自然に変わったのです。



3

旅のヒント

グリーンベルトには、段階的にサイクリングロードが設けられ、すでに大部分が快適に走行できるようになっています。

- 1 かつてのドイツ間国境の国境石
- 2 グリーンベルトの種多様性
- 3 グリーンベルトに沿ってのサイクリング

さらなる情報は:

www.germany.travel/
german-green-belt





ヴァルトブルク城、アイゼナハ



視点 10

ルター — 『論題』で世界を動かした男。

ルターは、反抗的な修道士にして教授、さらには宗教改革者でしたが、ドイツにとっては“偉大なる息子”でもあります。マルティン・ルターが、有名な『95ヶ条の論題』をヴィッテンベルクの城教会の扉に貼ってから、間もなく500年です。この伝説的な宗教改革者ゆかりの場所が、ザクセン・アンハルト州やテューリンゲン州、ザクセン州に多数存在し、25年前の壁崩壊からは再び見学できるようになっています。これらの場所は、観光の国ドイツの文化ツーリズムに、さらなるアクセントをもたらしているのです。

次のウェブサイトでは、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel

95ヶ条の論題と多数の“現場”。



アイスレーベンで生まれて、エアフルトに学び、ヴィッテンベルクで教授となって、ヴォルムス帝国議会に召喚される：ルターが足跡を残した場所は、この強靱な意志を持つ人間とその重要性を識るための、興味深い観光名所なのです。

ルター街道は、新たな文化ハイライトを結ぶ、全長1200キロメートルのルートです

コーブルクやアウクスブルク、ニュルンベルク、ハイデルベルク、ブレッテン、シュパイヤー、ヴォルムス、マールブルク、バート・ヘルスフェルトといった、宗教改革の“現場” 36か所が、比類の無い体験へと招いているのです。そして、全国規模のものとしては初めての特別展が、2015年にエルベ河畔の町トルガウのハルテンフェルス城でスタートします。

ルター都市アイスレーベン&ヴィッテンベルク

公式に「ルター都市」を冠しているように：いずれの都市も、ドイツ史におけるマイルストーンであり、ユネスコ世界遺産都市なのです — その対象物件としては、アイスレーベンにある「ルターの生家」やヴィッテンベルクの聖マリエン市教会、「ルターの墓」がある城付属教会などが挙げられます。当時としては普通の行為だった贖宥状（免罪符）の販売を、「魂の救済を金銭と交換するようなもの」と断じた人物は、様々な痕跡を残しました — これらの痕跡は、現在にも遍在し、人々を惹き付けています。

アイゼナハのヴァルトブルク城

ユネスコ世界遺産のヴァルトブルク城は、かつてルターが隠伏していた場所であり、今日でもルターシュトゥーベ（ルターの部屋）を目にできます。



エアフルトのアウグスティノ会修道院

ルターが修道士として生活していた場所であり、ルターに関する展示の他に、彼が使用していた房も見学できます。図書館は、約6万冊という、教会関係施設のものとしてはド

イツ屈指の蔵書を有しており、その中には宗教改革に関する書籍やルターの著作も含まれています。

有名な友人

ルターは、ルネサンス期の画家ルーカス・クラナッハ（父）と、深い親交を結んでいました。また、ヴィッテンベルクにあるクラナッハの家で、当時匿われていたカタリーナ — 後に妻となる女性 — と知り合っています。

旅のヒント

夏のヴィッテンベルクで3日間続くようなイベントに出会ったら、ルターとカタリーナの結婚を祝う催しに違いありません。それは、中世へと誘う、魅力的なタイムトラベルであり、歴史的な行列やルネサンス期の音楽などがハイライトになっています。2000人を超える参列者たちが、当時の衣装をまとった新郎新婦と共に、市街地を練り歩くのです。そして夜には、現代的な音楽も演奏されます。

-
- 1 ルター・ハウス、ヴィッテンベルク
 - 2 ルターの生家、アイスレーベン
 - 3 カイザーブルク、ニュルンベルク
 - 4 聖アンナ教会、アウクスブルク
-

さらなる情報は:

www.germany.travel/luther



視点 11

リュージュン島 — 白く輝く白亜岩とエレガントなプロムナード。

25年前の壁崩壊によって観光の国ドイツに含まれるようになったリュージュン島は、国内に51ある島の中で最大のものです。その象徴となっているのは、白亜岩の岸壁です。それとも、高級海水浴場にある擬古典様式の建築物でしょうか？ あるいは、果てしなく続く砂浜かも知れません。これらは全て、類い稀な魅力で人々に感激をもたらす、島の財産なのです。たとえば、リュージュン島で最も古い海水浴場プトブスは、擬古典様式の建物によって、多くの観光客を集めています。次のウェブサイトでは、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel

かつての救急ステーション — リュージュン島の戸籍役場



1



2



3



4



決して海水浴だけの島ではありません。

バルト海に浮かぶ、926平方キロメートルの自然と浴場文化

夏の旅では — それが自転車によるものでもヨットによるものでも — 北ドイツの島に広がる白い砂浜が、格好の目的地になります。そして、ピンツのような海水浴場のプロムナードを歩いていると、上品な魅力の虜になってしまうのは、どの季節でも同じです。



リュージェン島に関する旅のヒント

シュトラールズントのオツェアネウムは、建築における傑作であると同時に、8,700平方メートルにわたって、海洋生物の世界を紹介しています。ユネスコ世界遺産に登録されているシュトラールズントやヴィスマールの歴史地区では、散策しながら、伝説的なハンザ同盟時代の痕跡を目にできます。

- 1 箆椅子 / 2 ゼリン海橋 / 3 ヴィスマールの歴史地区
- 4 シュトラールズントのオツェアネウム
- 5 シュトラールズントのマルクト広場 / 6 ヤスメント国立公園

白亜岩の他にも

ヤスメント国立公園は、ドイツ最小の国立公園ですが、大自然の驚異に満ちています。海岸線には、高さ118メートルにも達する白亜岩の絶壁が、10キロメートルにわたって続き、ほとんど手つかずの自然の中には、成立から700年以上を経たヨーロッパナの林が、多数の湿原と共に広がっているのです。カスパー・ダーヴィト・フリードリヒの有名な絵は、このバルト海沿岸部の絶景からインスピレーションを得たものです。

バルト海の魔法とハンザ同盟都市

毎年夏にラルスヴィーク野外劇場で開催されるシュテルテベーカー祝祭劇は、大人にとっても子供にとっても忘れられない体験になるはずです。島から戻ると、シュトラールズントやヴィスマール、ロストックといった、海の香りと歴史的な街並みを持つ、伝統豊かな都市が待ち受けています。そして毎年8月には、何百隻という帆船と百万人もの観客をロストックに集めて、ハンザ・セイルが開催されます。

さらなる情報は:

[www.germany.travel/
mecklenburg-western-pomerania](http://www.germany.travel/mecklenburg-western-pomerania)



視点 12

ワッデン海 — 潮汐と共に姿を変えるユネスコ世界自然遺産

ワッデン海は、他に類を見ない海岸地帯であると同時に、極めて多様な生物の生活圏でもあります。さらに、数百万羽の渡り鳥の中継地になっています。潮汐が永遠のリズムで繰り返され、干潮時には海底を歩くことも可能です。ワッデン海は、2009年に世界自然遺産に登録されました。

次のウェブサイトでは、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel





1



2



3



4



5



海底に広がる体験ワールド。

1万年前に形成され、無数の生物が生息する土地

総面積13,000平方キロメートルのワッデン海には、無数の動物が生息しています。また、干潮時には“ハイキング天国”と化し、干潟を数キロメートル沖まで進むことができますし、いくつかの島には歩いて渡れるのです。

陸地でのコントラスト・プログラム

ワッデン海の北部は、シュレースヴィヒ・ホルシュタイン州に含まれます:この州は、2つの海 — 北海とバルト海 — に面する、唯一の連邦州です。つまり、ワッデン海から州都キールまで、ちょっと足を伸ばすだけで、北海からバルト海へ移動したことになります。また、シュレースヴィヒ・ホルシュタイン州には、比較的大きな湖沼が50以上もあるので、様々なウォータースポーツを楽しむことも、自然の中で休息することも可能です。

馬車で海を越えて

多数の島ではもちろん、干潟でも観光馬車に乗ることができます。この希少な場所でハイキングを楽しみたいのなら、経験のあるワッデン海ガイドと共に行動するようお勧めします。

- 1 ヘルヌム、ズルト島 / 2 干潟ハイキング
- 3 大型帆船パレード、バルト海 / 4 葦葦きの家、ズルト島
- 5 干潟での馬車観光

真珠のネックレスさながらに連なる島々

ワッデン海では、生物ばかりでなく、島嶼もふんだんに目にできます。それらの幾つかは、たとえば東フリースラント諸島のように、真珠のネックレスさながらに連なっています。また、満潮時には波に洗われるような、平坦な島もあります。その中のひとつであるハリヒ・グレーテ（ハリヒは高潮時に冠水する小島）は、ドイツ最小の自治体です。

旅のヒント

毎年6月に開催される「キール週間」では、世界最大規模の大型帆船パレードを目にできます。北海沿岸部ではズルト島が、夢のような砂丘風景と多彩なガストロノミーで人々を魅了しています。

さらなる情報は:

[www.germany.travel/
schleswig-holstein](http://www.germany.travel/schleswig-holstein)



視点 13

ハンブルク — 歴史とヴィジョンに満ちた、誇り高きハンザ同盟都市。

世界へのゲート。北ドイツの中心都市。ドイツ最大の海港。ハンブルクを説明しようとする、すぐに誇張さながらの言葉が出てきます。エルベ河畔の大都市は、商都としての伝統を受け継ぎ、世界に開かれているのです。過去25年における印象的な都市建設は、このハンザ同盟都市の魅力をさらに高めました。ハンブルクは、ヨーロッパ最大規模の都市再開発プロジェクトに数えられるハーフェンシティ（英語：ハーバーシティ）で、「都市の未来」についての基準を設定したのです。ちなみにハンブルクには、アムステルダムとヴェネツィアを足した数より多い、2500近くの橋があります。

次のウェブサイト、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel







海の香り

とミュージカル、メディアの都市。

巨大な舞台としての港、エレガントな姿をした都市

ハンブルクのハイライトは、どこから紹介したらよいでしょう？ エルベ河畔のエレガントなプロムナード？ 巨大な港？ それとも、歴史に根ざしながらもヴィジョンに満ちたハーフェンシティ？

水上のハイライト

ハンブルクの港は、様々なものを発見したり見学できる“海の世界”です — たとえば、港巡りを楽しめますし、秋のハンブルク・クルーズデイズでは、豪華客船クルーズのフィーリングを肌で感じることもできます。

倉庫街とハーフェンシティ

都市計画のプロジェクトもまた、ハンブルクの特別なポジションを反映するものです：ネオ・ゴシック様式のレンガ建築物が並び、歴史的な倉庫街が、ハーフェンシティの建設ヴィジョンと共に、この事実を証明しています。マーケティングやメディアの分野で、クリエイティブな職種に就いている人の多くが、生活の場にハンブルクを選んでいるのは、理由のないことではないのです。

ハンブルクの“内陸部”

海際の地区と興味深いコントラストをなしているのが、シティ（昔ながらの中心街）です。ここには、インターナショナルなグルメレストラン&ホテルや高級ショッピング・ストリート、ハンブルク博物館のような文化スポットが集中しています。

ハンブルクの旅のヒント

ハンブルクは、世界で3番目の規模を誇るミュージカル都市です。世界的なヒットを記録した『オペラ座の怪人』から小規模なザンクト・パウリ劇場まで：観光の国ドイツの北部では、スタンディング・オベーションは日常的な光景です。2017年からは、センセーショナルな設計によるエルプフィルハーモニーでも、喝采が期待できます。そして5月には、ハンブルク開港祭 — 世界最大の港祭り — が、3日間にわたって盛大に祝われます。

- 1 写真館、ダイヒトアホール美術館
- 2 エルプフィルハーモニー（建設中）
- 3 オイローパ・パサージュ、ショッピングセンター / 4 倉庫街

さらなる情報は：

www.germany.travel/hamburg





気候館、ブレイマーハーフェン



視点 14

ブレーメン — 海洋都市としての伝統と近未来的なサイエンスセンター。

ハンザ同盟都市と港湾都市 — ブレーメンとブレーマーハーフェンという“2姉妹”の特徴を表すのに、これ以上の言葉はないでしょう。これら2つの都市では、ブレーマーハーフェンのドイツ移民センターと気候館、そしてブレーメンのウニヴァーズムが、歴史的な都市アンサンブルの中で、新たな観光アトラクションを創り出しています。

次のウェブサイトで、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください: www.germany.travel

1



2



3



4



2つの都市からなる、スリリングな体験ランド。

常に世界に開かれていたブレーメン&ブレーマーハーフェン

この姉妹さながらの2都市は、ハンザ同盟都市や外洋航海の拠点として、伝統的に世界との接点を持っていました。

バロックとルネサンス、宇宙航空

ブレーメンの市庁舎とローラント像は、ユネスコ世界遺産に登録されています。高さ5.5メートルのローラント像は、都市の自由と独立を表す象徴であり、ドイツ最古のローラント像に数えられます。これに対して、スリリングな科学の世界を紹介しているのが、ユニヴァーзум (Universum®) ブレーメンと“緑のサイエンスセンター” ボタニカ (botanika®)、EADSアストリウム — 宇宙での生活を模擬実験できる施設 — です。

コーヒーとメルヘンから

ブレーメンでは、すでに1673年にはコーヒーの取引が盛んになっていました。当時としては非常に高価かつ贅沢な飲み物だったコーヒーは、数世紀にわたってブレーメンの重要な経済要因だったのです。一方でグリム兄弟のメルヘンは、フィクションの中のこととはいえ、『ブレーメンの音楽隊』という不朽の記念碑を、この都市に打ち立てました。

1 ブレーメンの音楽隊 / 2 ローラント像 / 3 ドイツ移民センター、ブレーマーハーフェン / 4 ブレーメン市庁舎

ブレーマーハーフェン — 新たな水平線

ブレーメンから1000年ほど遅れて建設されたブレーマーハーフェンでは、世界最古のコック (ハンザ同盟の帆船) や世界最大のコンテナ港などを通して、その歴史的&グローバルな活動範囲を垣間見ることができます。

ブレーメン&ブレーマーハーフェンの旅のヒント

ブレーメンの人気スポットになっているのが、シュノーア地区 — 16世紀以来の曲がりくねった路地 — です。ブレーマーハーフェンにあるドイツ初の移民センターでは、ドイツやヨーロッパにおける移民の歴史を体験できます。そしてブレーマーハーフェンの気候館 (Klimahaus®) は、世界の気候帯を巡る、魅力溢れる旅へと入館者たちを誘っています。

さらなる情報は:

www.germany.travel/bremen





アウトシュタット、ヴォルフスブルク



視点 15

アウトシュタット — クルマ好きのためのテーマパーク。

トラビ (トラバント) は、かつての東ドイツを象徴する自動車でした。今日のドイツ車は、クオリティ製品を象徴する存在として、世界的な人気を誇っています。ヴォルフスブルクのアウトシュタット (自動車の町) は、新たな次元で自動車の魅力を演出する、テーマパーク&体験ワールドです。これまでの入場者は、2600万人を超えました。子供向けのものを含む、多数の文化イベントやアトラクションが、一年を通して開催されています。

次のウェブサイトでは、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください: www.germany.travel

ブランドとアトラクション、エモーション。

ハノーファーとハルツ山地の間という、絶好のロケーションにあるヴォルフスブルクのアウトシュタットは、主にフォルクスワーゲン社とその歴史を紹介しています。



アウトシュタットは常にシーズン

このテーマパークの素晴らしいところ:どんな季節でもモビリティの世界が、実物やマルチメディアによる展示で、人々を感動させているのです。ヴォルフスブルクのアウトシュタットでは、自動車の魅力が、様々な文化イベント — 毎年開催されるダンス&カルチャー・フェスティバル「モビメントス」やグルメ関連のアトラクションなど — と組み合わせられています。

ブランドを識る

アウトシュタットの8つのパビリオンでは、コンツェルンの自動車ブランドが — 関連が深いポルシェからフォルクスワーゲンの営業用車両まで — 紹介されています。パビリオンの建築デザインも、それぞれのブランドの特徴を反映したものになっています。

ツアイトハウス

アウトシュタットで最も入場者の多いアトラクションであり、数十年の自動車の歴史における主要モデルや画期的なデザインを目にできます。定期的に変更される写真展では、様々な時代の

精神を目に見える形で紹介しています。



自動車の塔

アウトシュタットのトレードマークになっている、高さ48メートルの円柱形の塔2本には、最大800台の新車が収納され、自動昇降装置によって購入者に引き渡されます。

ヴォルフスブルクの“必見スポット”

ヴォルフスブルクのフェーノは、350種類もの自然・科学現象を体験できる、ドイツでも類を見ないサイエンスセンターです。ヴォルフスブルク美術館は、近現代美術の他に、近代的な産業都市における観点をテーマとして取り上げています。

ヴォルフスブルク周辺の旅のヒント

自動車の試乗の他にも、ハノーファーへ向かう理由はいくつもあります:たとえば、ヘレンハウゼン王宮や歴史的な博物館、バロック様式の庭園などを目にできるのです。また、かつては国境地帯だったハルツ地方への、歴史的な狭軌鉄道によるエクスカージョンもおすすめです:ヴェルニゲローデやクヴェートリンブルク(いずれもザクセン・アンハルト州)は、バロック様式の建物を含む中世後期の街並みで、この地方の代表的な観光スポットに数えられています。さらに、美しい風景やハイキング、ウインタースポーツを楽しめますし、見学用鉱山と洞窟も目にできます。

-
- 1 ヘレンハウゼン王宮、ハノーファー / 2 木骨家屋、ヴェルニゲローデ、ザクセン・アンハルト州 / 3 フェーノ、ヴォルフスブルク
4 城山、クヴェートリンブルク、ザクセン・アンハルト州
-

さらなる情報は:

www.germany.travel/lower-saxony





フランクフルト・アム・メイン

視点 16

フランクフルト — ドイツで唯一のスカイライン。

フランクフルト・アム・マインには、過去25年間に印象的な高層ビルが建てられ、ドイツで唯一のスカイラインが形成されました。その息を呑むようなシルエットには、ドイツで最も高いビルである、コメルツバンク・タワーが含まれます。そして、飛行機の発着回数が1日1400で、1時間では90を数える、ヨーロッパ3番目の規模を誇る空港も、この都市に存在するのです。とはいえ、フランクフルトは伝統にも恵まれています。その代表例となるのが、市庁舎「レーマー」の周りに広がる旧市街であり、ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテの生家です。

次のウェブサイトでは、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel

1



2



3



4



ビジネスと文化とベンベル。

様々な側面と偉大な名前をもつ都市。

ゲーテの出生地、ドイツにおける民主主義の揺籃地、重要な見本市の開催地、アップルワインのパラダイス：フランクフルトには、歴史的・革新的な面だけでなく、ロマンチックな面もあります — いずれも探してみる価値があるものです。

文豪の出生地

ゲーテは、1749年8月28日の12時ちょうどに、グローサー・ヒルシュグラバーベンの家 — 後期バロック様式の内装が施された住居 — で生まれたとされます。生家は、オリジナルに忠実に修復され、今日ではフランクフルト・ゲーテ博物館が入っています。

人々がアップルワインに集まる場所

市内 — とりわけボルンハイム地区とザクセンハウゼン地区 — では、地元産のリンゴから造ったワインが、ベンベル（専用の陶製ピッチャー）で供されます。このフランクフルト名物を味わうなら、中庭を備える、昔ながらの居酒屋がおすすめです。

1 レーマー / 2 ベンベル / 3 博物館河岸

4 ゲーテ博物館

熱帯の世界と歴史の香り

1871年にオープンしたパルメンガルテンでは、豊かに茂った熱帯オアシスを、一年を通じて体験できます。19世紀のスタイルによる温室だけでも、訪れるだけの価値があるはず。また、盛期イタリア・ルネサンス様式で再建されたアルテ・オペラも一見に値します。

フランクフルトの旅のヒント

スカイラインと向かい合うように：マイン河畔には映画博物館や建築博物館の他にも、ハイレベルなミュージアムが13館並んでいます — その中のひとつがシュテューデル美術館です。フランクフルト最大のミュージアムにして、ドイツで最も重要な展示施設に数えられ、2900点以上の絵画を所蔵しています。このマイン川南岸では、毎年8月に博物館河岸祭りが開催され、世界各地の文化や料理が紹介されます。

さらなる情報は：

www.germany.travel/hessen



視点 17

ルール地方 — 炭鉱地帯から文化首都へ。

1989年に壁が崩壊した時、ルール地方にも新たな地平線が開けていました。ヨーロッパ最大規模の産業地帯の、息を呑むような変遷は、数十年にわたって続くことになります。まだ1960年には、多数の立坑櫓が風景を特徴づけていましたが、今日では動植物相と共に文化が栄えています。この変遷のマイルストーンになったのが、地域としては初めてとなる、2010年「欧州文化首都」への選出です。

次のウェブサイトで、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel





ガスタンク、オーバーハウゼン

53の都市とひとつの世界遺産、多彩な景観。



産業地帯としての過去から、魅力的な文化テーマ&スポットを生み出している、ルール地方の変遷には目を見張るものがあります。

ツォルフェライン炭鉱 — 変遷の象徴

この炭鉱の坑道に鉱夫たちが入ったのは、1986年が最後になりました。今日では、国際音楽見本市のような、大規模な文化プロジェクトの会場やミーティングポイントになっています。

ヨーロッパで最も高い展示ホール

オーバーハウゼンのガスタンク (ガソメーター) は、象徴としての

性格をもつ巨大な存在です。1929年に建造され、いわゆる高炉ガス — 鉄鉄製造時の副産物 — が貯蔵されていました。現在この建物は、美術展の会場になっており、鉄筋構造の壁に最大8回のエコーが響くことでも知られています。

決して平凡ではない日常デザイン

エッセンのレッド・ドット・デザイン・ミュージアムでは、見事なプロダクトデザインを身近に体験できます。5つのフロアに、ヘリコプターからUSBメモリまで、1000点余りが展示されているのです。現代デザインに関するものとしては、世界最大の展示会場であり、常にアクチュアルなテーマ展示が行われています。

ルール地方の諸都市

デュイスブルクとエッセン、オーバーハウゼン、ドルトムント、ボーフム：ルール地方の諸都市は、Sバーン（近郊電車）で行ったり来たりできるほど、狭い範囲に集中しています。また、ルール渓谷サイクリングロードを利用しての観光も可能です：これは、ザウアーラント地方へと続く全長230キロメートルのサイクリングロードで、最初の100キロメートルはルール地方の大都市を通っているのです。それぞれの都市は、独自の歴史を有しています。全てに共通するのは、鉱山業の産業化が始まってわずか数十年のうちに、小さな町から大都市へと爆発的に人口が増加したことです。



ルール地方の旅のヒント

様々な芸術ジャンルが統合された、ルール・トリエンナーレという国際芸術フェスティバルが、2002年以来開催されています。エッセンのフォルクヴァンク美術館は — 2010年以降は建築家デイヴィッド・チッパーフィールドが設計した建物の中で — 印象派や表現主義、シュールレアリズムの主要作品を展示しています。ボーフムの鉱山博物館は、オリジナルに忠実に再現された、全長2.5キロメートルの見学用坑道で人々を惹き付けています。そして、オーバーハウゼンの“ツェントロ”は、まずポストモダンな建築で、さらには10万平方メートルの敷地内に設けられた、200軒以上のショップと様々なアトラクションで、強い印象を与えているショッピングセンターです。

1 ツォルフェライン炭鉱のプール / 2 ヴェストファーレン公園、ドルトムント / 3 ショッピングセンター“ツェントロ”、オーバーハウゼン / 4 フォルクヴァンク美術館、エッセン

さらなる情報は：

[www.germany.travel/
north-rhine-westphalia](http://www.germany.travel/north-rhine-westphalia)





BASFのワインセラー、ルートヴィヒスハーフェン

視点 18

ワインの国ドイツ — 若き醸造家たちが、品質で感動をもたらしているところ。

再統一以来、観光の国ドイツには13のワイン生産地が存在します。ドイツ最大のワイン生産地である、ラインラント・プファルツ州のラインヘッセン地方では、6千のワイナリーが、1億2千万本のブドウの木から、250万ヘクトリットルのワイン — たいいていは高品質のリースリング・ワイン — を製造しています。若い世代の醸造家たちは、この伝統豊かな生産地に、世界中のワイン愛好家たちからの高い評価をもたらしました。

次のウェブサイトでは、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください: www.germany.travel



1



ここでは**ワイン**が、新たな世界へと導きます。

生きる喜びと味わいをもたらすヴィノテーク&イベント

近代的な建物の中に設けられたヴィノテークやワインセラー、そして最新の技術を導入したワイナリーが、ワインをめぐる類い稀な体験をもたらします。

ブドウ畑とワインセラーにおけるクオリティ

ラインヘッセン地方で、愛好家と批評家の両方から高い評価を受けているのは、リースリング種に限りません。ジルバーナー種やブルグンダー種の評価も高まっています。この地域は、日照時間が年間1700時間に達し、降水量が少ないので、多数のエコ・ワイナリーにとっても理想的な環境といえます。

ドイツ・ワイン街道に沿っての楽しみ

プファルツ地方のワイン生産地を巡り、味わう、全長85キロメートルのルートです。ここでは、ワイン祭りやボリュウムたっぷりの名物料理が、美食の喜びを約束しています。バート・デュルクハイムの世界最大のワイン祭りの他に、一部は1000年もの歴史がある町や村が、見どころに挙げられます。

1 ラインシュタイク / 2 活版印刷機、グーテンベルク博物館

3 ハムバッハ城 / 4 シャガール・ステンドグラス



ラインヘッセン地方の旅のヒント

大聖堂の都市マインツは、専門の博物館を設けて、“偉大なる息子” ヨハネス・グーテンベルクを称えています。彼は、15世紀に活版印刷を発明して、“メディア革命”を引き起こしました。博物館には、有名な「グーテンベルク聖書」が展示されています。博物館からさほど離れていない場所では、シャガール自身が描いたステンドグラスが、聖シュテ

ファン教会の内陣で、芸術による癒やしの力を伝えています。賑やかに祝い美食を楽しむなら、ワイン街道の町ダイデスハイムは、一年を通じてトップ・アドレスに数えられます。

さらなる情報は:

[www.germany.travel/
rhineland-palatinate](http://www.germany.travel/rhineland-palatinate)





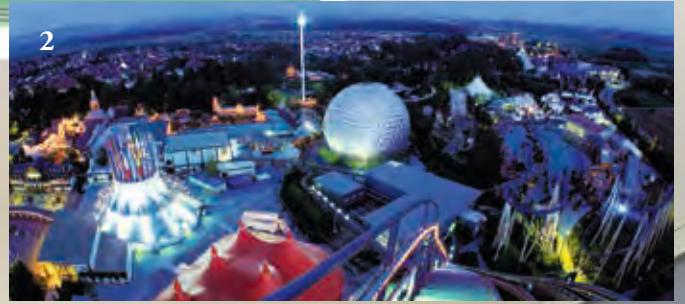
シルバースター、ヨーロッパパーク

視点 19

ヨーロッパパーク — ひとつの大陸がテーマパークに。

フライブルク郊外のルストにあるヨーロッパパークは、絶えず新たな施設やアトラクションが追加され、ドイツ最大規模のレジャーパークに発展してきました。現在ここでは、象徴的な建物が設けられた13の国が、一緒に楽しむための、わくわくするようなテーマを演出しています。そして、再統一から25年経たドイツを統計的に見ると、国内のどんな地点でも40キロメートル以内にジェットコースターがあり、計73を数えるレジャーパークのひとつまでなら、距離がさらに短くなるのです。次のウェブサイトで、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel





国内最大のジェットコースターなど。

時速130キロメートルとショーを両方とも！

ドイツとフランス、スイスの3国国境地帯では、100のアトラクションと11のジェットコースター、ドイツ最大規模の4つ星リゾートホテルが、忘れられない時間を約束しています。

ヨーロッパパークのハイライト

牧歌的なシュヴァルツヴァルト（黒い森）とフランス領アルザス地方の間では、エキサイティングな乗り物だけでなく、それぞれの季節に応じた特別アトラクションも体験できます。夏には刺激的な納涼イベントが、秋には16万個ものジャックランタン（ハロウィンのカボチャ細工）が、そして冬にはウインター・ショーが— ここには退屈という言葉が存在しません。

旅のヒント

ファンタジー溢れる冒険エリアとしての自然：ヨーロッパパークは、2014年の夏シーズンに『アーサー — ミニモイの王国で』という屋内テーマエリアをオープンし、家族全員が楽しめるトップレベルのファンタジー・スペクタクルを提供します。

ドイツ西南部 — ちょっとした“夢の国”

ヨーロッパパークの近くには、エクスカッションの目的地にぴったりの場所がいくつもあります：たとえば、エレガントな保養地バーデン・バーデン、宮殿都市カールスルーエ、州都シュトゥットガルト、絵画のように美しいフライブルクの街並み、シュヴァルツヴァルトの素晴らしい風景などが挙げられます。

最高のロケーションから生まれたワイン

（ヨーロッパパークがある）ルストの周辺は、ドイツ有数のブドウ栽培地です。バーデン地方のワインは、ドイツで最も日照時間が長い風土の恩恵を受けており、たとえばブルグンダー種の高品質ワインが造られています。

1 バーデン・バーデン / 2 ヨーロッパパーク、ルスト / 3 州立美術館、シュトゥットガルト / 4 『アーサー — ミニモイの王国で』



さらなる情報は：

[www.germany.travel/
baden-wuerttemberg](http://www.germany.travel/baden-wuerttemberg)





視点 20

フェルクリンゲン製鉄所 — 世界でも類を見ない産業記念物。

ここでは、壁が崩壊する寸前まで、ザール地方の鉱山で採掘された鉄鉱石が加工されていました。操業を停止した製鉄所は、1994年に“第2の人生”をスタートします — 産業記念物としては世界で初めて、世界文化遺産に登録されたのです。フェルクリンゲン製鉄所は、鉄鋼業の全盛期に建設され、完全な形で保存されている、世界で唯一の製鉄所であり、観光名所の多い地域の中でも、訪問者が最も多い文化スポットになっています。

次のウェブサイト、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください: www.germany.travel



ブローホール、フェルクリンゲン製鉄所

1



工業技術が産業文化に。

総面積60万平方メートルに及ぶ“産業社会のジュラシック・パーク”

ザールラント州とフランス・ロレーヌ地方、ルクセンブルクに広がる3国国境地帯では、100年以上にわたって産業史が刻まれてきました。今日、この伝統は保護されています — そしてフェルクリンゲン製鉄所は、当時を例証する存在なのです。

ここでは、全てのものがオーバーサイズ

総面積6000平方メートルに達するブローワーホール、恐竜さながらの機械類、6基の巨大高炉、高さ30メートル近い炉口—19世紀の工業技術は、今日なお見学者たちの敬意を集めています。

トップイベントのためのトップロケーション

フェラーリ・ショーやハイレベルなジャズ演奏、「ポップ・ジェネレーション」展 — 歴史的な重要性と並んで、アクチュアルなイベントも、フェルクリンゲン製鉄所を訪れる理由になっています。

-
- 1 ザール・ループ / 2 標識付きのターフェルツアー
 - 3 ゴンドワナ — 先史館 / 4 ザール・サイクリングロード
-

観光地としてのザールラント

ザールラント州のサイクリングロードでは、たとえばザール・ループ（ザール川が大きく湾曲している箇所）のような、印象的な風景を目にできます。そして、ザールラント州のレストランが供しているのは「クオリティ」です：地域に根ざしながら、星付きレベルの料理を出しているのです。また、フェルクリンゲン製鉄所の原料が、どこから供給されていたのか知りたければ、地域の鉱山に関する展示を訪ねてください。

ザールラント州に関する旅のヒント

バリエーション豊かなターフェルツアー（独特の標識が設けられた各種ハイキングツアー）では、グルメ料理と壮大な風景を堪能できます。世界でも類を見ない恐竜パーク「ゴンドワナ — 先史館」は、印象的な3D効果により、太古の地球へのエキサイティングなエクスカッションを約束しています。

さらなる情報は：

www.germany.travel/saarland





パッサウ



視点 21

ドナウ川 — 歴史を物語る流れ。

ドイツから黒海に至るドナウ川は、世界で最も多くの国を通過する河川です。全長は2800キロメートルで、そのうち609キロメートルがドイツ国内を流れています。壁が崩壊するまでは、今日10か国を数える流域国の多くが、“鉄のカーテン”の背後にありました。現在では、ドナウ川の河口までクルーズを楽しめますし、多くの人がパッサウで船旅をスタートしています。次のウェブサイトでは、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel

船や自転車で河川風景を満喫する。

ドナウ川の美しさを知りたいなら、クルーズや川に沿ってのサイクリングがおすすめです。

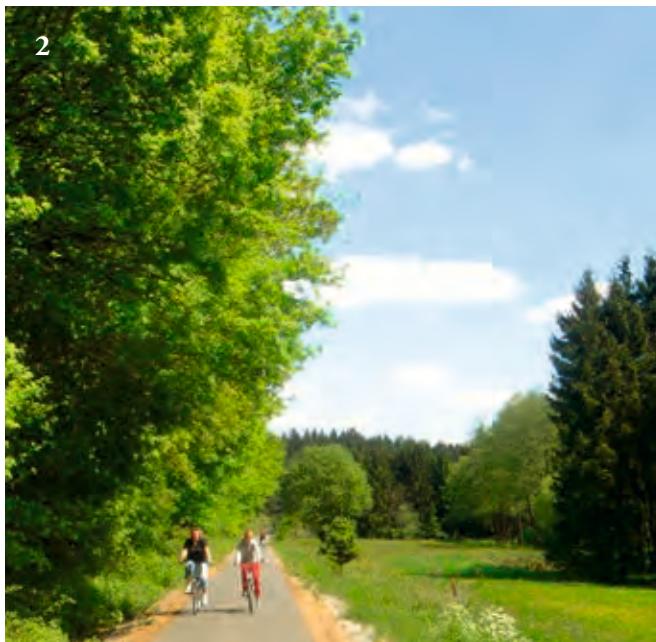
ドナウ川を川岸から発見する

ハイキングやサイクリングで、ドナウ川の魅力を堪能できるルートが存在します — たとえば、ドナウ＝ポーデン湖ロードはポーデン湖畔の町を結ぶものですし、ドナウ山岳ロードはドイツ最高地点にあるグライダー飛行場を通ります。

ドナウ川クルーズ — ドイツの新たな視点

日帰りのエクスカージョンでも、ドナウ・デルタまでの長距離クルーズでも：船の甲板に立って、スローモーションのように流れていく風景や都市を眺めながら、のんびりとくつろいで旅を楽しめます。スタート地点は、オーストリアと国境を接する“3河川の町” パッサウです。毎年21万3千人以上が、ここから船旅に出発しています。





見どころ：ドナウ川流域の都市

ドイツ国内では、3つの大都市がドナウ河畔にあります。ひとつは、アルベルト・アインシュタインの出生地にして、世界一の高さの教会塔（161.53メートル）を持つ都市ウルム。そして、1516年にバイエルン公国におけるビール純粋令が制定された都市インゴルシュタット。最後に、旧市街がユネスコ世界遺産に登録されている都市レーゲンスブルクです。

-
- 1 レーゲンスブルク / 2 ドナウ＝イルツ・サイクリングロード
3 国際ドナウ祭、ウルム
-

ドナウ川流域の旅のヒント

有名なドナウ・サイクリングロードは、全長2,800キロメートルで、ドナウ川の長さにはほぼ匹敵します。そのうち、ドイツ国内を流れているのは609キロメートルです。毎年夏にウルム／ノイ・ウルムでは、ドナウ川流域の多様な文化を反映した、国際ドナウ祭が10日間にわたって開催されます。ロマンチック：同じく夏に行われる、ウルムの「光の祭典」では、ドナウ川がイルミネーションに彩られます。

さらなる情報は：

www.germany.travel/bavaria





フランケン地方の温泉地パート・ヴィンツハイム



視点 22

健康 — ウェルネス・メイド・イン・ジャーマニー

1000以上のウェルネス&ビューティホテル、それぞれの土地特有の療法や治癒術を行う、350以上の認定温泉地・保養地、様々な専門分野を網羅する2000以上のクリニック — 健康の国ドイツによろこそ！ 壁の崩壊から25年を経た観光の国ドイツは、“治癒効果のある休暇滞在地”としての性格も備えています。

次のウェブサイト、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel

1



2



3



あらゆる地域に**健康**が息づいています。

観光の国ドイツが提供する、自然の力と有益な知識

クリニック、温泉、泥土浴療養地、セラピー、マッサージ、クナイブ療法 — 観光の国ドイツでは、伝統的&革新的な健康関連施設と療法が、世界各地からの保養客や患者に提供されています。

診断:高度な専門知識を基に

有名な専門医による医学的診断の他にも、学際的な共同作業による、総合的な判断や治療を受けることができます:この点において、ドイツの病院は高く評価されており、国際的な患者の数は増加の傾向にあります — その代表例となっているのが、ベルリンの大学医学部付属病院シャリテです。専門知識こそが最高の薬なのです。

ウェルネス+医療=メディカル・ウェルネス

近年では、古典的なウェルネス・プログラムの他に、ウェルネスと医学的治療を組み合わせた、新たなサービスが定着してきました。その際に主流となっているのは予防処置です:医学的な指示に従って、自分のためになることを行い、より快適な生活を実現するのです。

健康に関する旅のヒント

たとえば、ドイツ最古の泥土・鉱泉浴場に数えられるザクセン州立温泉保養地バート・エルスターには、クア施設としての長い伝統があり、ウェルネス休暇に理想的な環境が整えられています。バルト海浴場のゲーレンでは、総合的なクナイブ療法が可能です — クナイブ療法は、水療法と植物療法、運動療法、食療法、秩序療法という、5本の柱で構成されています。ドイツの多数の保養地では、水浴やパック、マッサージ等からなる “海洋療法” タラソセラピーも、ウェルネス・プログラムに含まれています。ブルク・イム・シュプレーヴァルトでは、泥土浴の他に、最高レベルのウェルネス休暇を体験できます。

- 1 健康の国ドイツ / 2 “琥珀プロムナード”、ゲーレン
- 3 アルペルト浴場、バート・エルスター

さらなる情報は:

www.germany.travel/health





ザクセン・スイス



視点 23

アクティブ休暇 — 道自体が目的地。

25年前に壁が崩壊してからというもの、観光の国ドイツには、多数の素晴らしいサイクリング&ハイキングロードが生まれました。この結果、現在では全長7万キロメートルに及ぶ、200本の長距離サイクリングロードが、ほぼ同数で全長20万キロメートルに達するハイキングロードと共に存在します。さらに、クライミングやジオキャッシング、サーフィン、スキーでも、最高の場所を見つけることができます。

次のウェブサイト、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください: www.germany.travel

ここではスポーツ種目さえ生まれています。

よく知られている“ドイツの発明精神”は、スポーツの分野にまで及びます。その証拠となるのが：スリリングなトレンド・スポーツに数えられるフリークライミングは、1864年に初めてザクセン・スイスで行われ、後に世界中に広がりました。その他にも：観光の国ドイツは、アクティブ休暇においては、常にシーズンです。

ハイキング

観光の国ドイツに200余りある、ハイキングロードの多くは、品質・等級証明を受けており、ボランティアによって管理されています。かつての東西ドイツ国境地帯が通行可能になったことで、たとえば「ハルツ魔女の山道」や「フォークトランド・パノラマロード」をはじめとする、新たなルートが多数開通しました。この他のクオリティ・ハイキングロードとしては、ベルリンの周囲を通



-
- 1 ボーデン湖でセーリング / 2 シュヴァルツヴァルトでハイキング
3 アルゴイ地方のフュッセン近郊でサイクリング
-



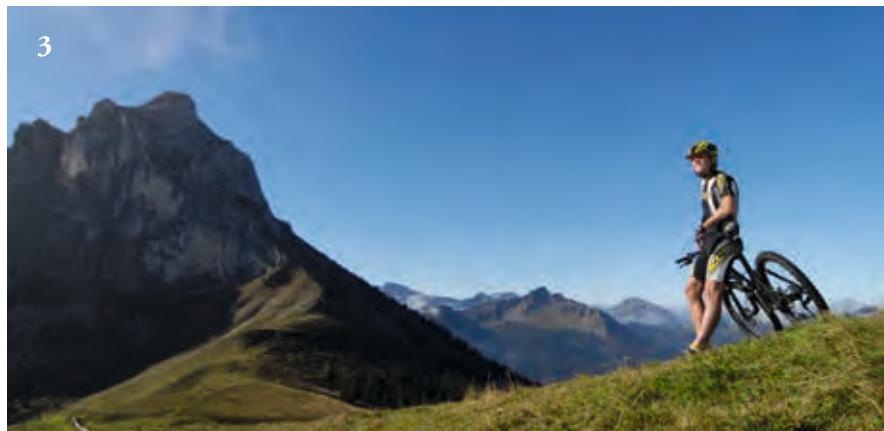
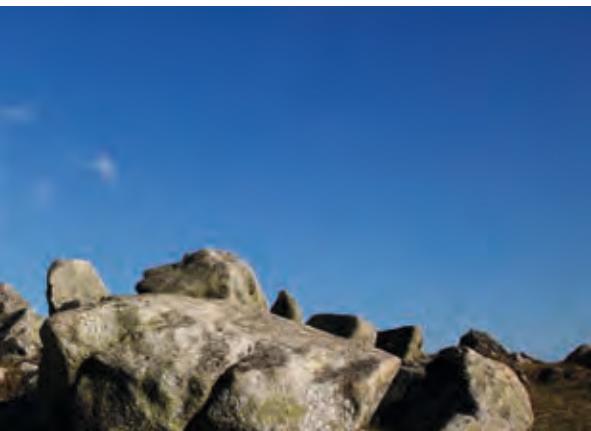
る「66の湖沼の道」や「エルツ山地・フォークトランド尾根道」、チューリンゲン地方の「キフホイザー・ヴェーク」、そして2013/2014年の冬シーズンからはクロスカントリースキー用の標識も備える「レンシュタイク」などが挙げられます。

サイクリング

全長7万キロメートル以上に及ぶサイクリングロード網が整備され、様々な宿泊施設が用意されています。日帰りでサイクリングを楽しむなら、変化に富んだ風景を目にできる、川沿いのルートがおすすめです。MTBなら、シュヴァルツヴァルト（黒い森）やハルツ、エルツ、アイフェルといった中級山地で、レベルが高くてバリエーションも豊富なトレイルを堪能できます。のんびりと走りたいのなら、ベルリンの南に広がる“ヨーロッパ・スケート地域” テルトウ＝フレーミングがぴったりです。一般道から離れて、草原や森林、農地、集落の中を通る、全長230キロメートルのコースでは、リラックスしてサイクリングやインラインスケートを楽しめます。ドイツでは、サイクリストも心から満足できるのです。

アクティブ休暇に関する旅のヒント

ドレスデン郊外に広がるザクセン・スイス国立公園では、類い稀な奇岩を含む、魅力的な自然風景を満喫できます。一方で、ザンクト・ペーター＝オルディングのカイトサーフィン世界選手権には、世界のトップ選手が集結し、風力10の中でスリル溢れる競技が展開されます。日中は息を呑むようなハイパフォーマンスが、夜はエキサイティングなビーチパーティが繰り広げられる、人気の高いイベントです。淡水の方が好みなら、ドイツとスイス、オーストリアの3国が接する、ポーデン湖畔は“ウォータースポーツのパラダイス”です。このドイツ最大の湖の周りには、全長273キロメートルに及ぶサイクリングロードも設けられています。



さらなる情報は:

www.germany.travel/active





ショーウィンドーのインスタレーション、デュッセルドルフ



視点 24

観光の国ドイツ — ショッピングが旅行目的になるところ。

25年前の壁崩壊により、たとえばマイセン磁器製作所のような、新たなショッピング・スポットが生まれました。エレガントなショッピング・ストリートや素晴らしいショッピング・モールを備える、ミュンヘンやフランクフルト、ベルリン、デュッセルドルフ、ハンブルクといった従来のショッピング都市に、マイセンのような世界的ブランドが、その“体験ワールド”と共に加わり、ドイツのショッピング・シーンをより豊かなものに行っているのです。シティでも、アウトレットでも、地元の美術工芸品店でも — 観光の国ドイツは、世界でもトップレベルの「ショッピングの国」として知られています。

次のウェブサイトでは、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください：www.germany.travel



幸福な気分になるショッピング・ツアー。

世界的なブランドと個人的なお土産

賑やかな大都市、近郊に設けられたアウトレット・センター、美術工芸品の直売店 — 観光の国ドイツの多様性は、ショッピングにおいても明らかです。

いかにもドイツ的：伝統的な美術工芸

美しい風景、のどかな町、そしてドイツの美術工芸 — ここでは旅心とショッピングが、心躍るような形で結びついています。その一例となるのが、“白い金”をめぐる興味深い歴史が垣間見られる、マイセン磁器製作所です。

アウトレット — 出かけるだけの価値があります

様々な世界ブランドが、都市部からも近い、狭いエリアに集中している — それが、観光の国ドイツにおけるアウトレット・センターの特徴です。ベルリンやノイミュンスターのマッカーサーゲレン・デザイナーアウトレット、アウトレットシティ・メッツィンゲン、シック・アウトレットショッピング®ヴェルトハイム・ヴィレツジ、インゴルシュタット・ヴィレツジなどが、ショッピング体験 “メイド・イン・ジャーマニー” の代表的な例として挙げられます。



観光客にとってのベストセラー

ドイツで国外からの旅行者に人気があるのは、まずクオリティ製品の時計と装飾品、続いて衣類&ファッション製品や皮革製品といったところです。

旅のヒント

観光の国ドイツを通る、150以上の観光街道では、様々なものが見つかります。たとえば、カッコー時計の故郷であるシュヴァルツヴァルト (黒い森) 地方ヴィリンゲン=シュヴェニンゲンの周囲を通る、全長300キロメートルの「ドイツ時計街道」、バンベルクからパイロイトへと続く「陶磁器街道」、フランケン地方のニュルンベルク周辺地域を結ぶ「ドイツおもちゃ街道」などは、ショッピングの機会をふんだんに提供しています。

1 マイセン磁器製作所 / 2 アウトレット・ショッピング

さらなる情報は:

www.germany.travel/shopping



視点 25

国境のない自然風景 —
一見の価値がある隣国。

ドイツと東欧諸国の国境付近には、魅力的な旅行目的地が存在します。壁が崩壊してからというもの、いくつかの風景や場所は、再び完全な形で目にできるようになりました — その代表例が、ドイツで最も東に位置し、その一部がポーランド領になっている都市ゲルリッツです。国境をまたいだ自然風景は、かつての“鉄のカーテン”沿いに広がっています — たとえば、ドイツとチェコ、ポーランドの3か国国境地帯にあるツィッタウで見られます。

次のウェブサイトで、観光の国ドイツにおける、個人的な“視点”を見つけてください: www.germany.travel





ゲルリッツ

国を結びつける、美しい**景観**。

今日、ドイツとポーランド／チェコの国境付近で、再び美しい風景を目にできるのは、ドイツ再統一の恩恵といえるでしょう。このようにドイツ再統一は、いくつか“自然の奇跡”をもたらしているのです。

分割されながらも、統合へ

良好な隣人関係の典型例とされるのが、ドイツで最も美しい都市に挙げられることも多いゲルリッツ（ポーランド領の部分はズゴジェレツ）です。戦禍を免れた市街地では、3500もの — たいていは丹念に修復された — 建築記念物が、訪れる人々を感激させています。

ヴィア・サクラ — 550キロメートルの欧州文化
ヴィア・サクラは、ドイツ再統一の結果生まれた、まだ比較的新しい観光街道ですが、教会や修道院といった宗教文化財により、すでに文化ツーリズムにおけるマイルストーンといった趣があります。これは、ザクセン州バウツェン市のパンシュヴィッツ＝クツカウから、チェコを経て、ポーランドのクシェシュフに至る、国境をまたいだ巡礼路です。



国境を越えた山々

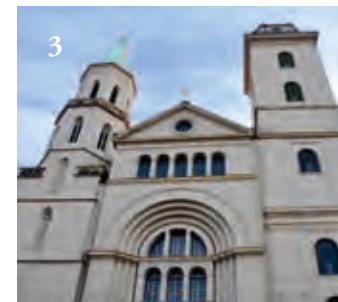
ドイツとチェコの国境沿いに聳えるエルベ砂岩山地は、1億4500万年余りに形成されたもので、25年前からは再び世界中の人々に開放されています。ピルマを起点とする「画家の道」は、かつてロマン派の画家たちがインスピレーションを得ていた台地を越え、細い渓谷を辿るものです。

隣国の保養地

ドイツとポーランド／チェコの国境沿いには、バルト海からバイエリッシュ・ヴァルトまで、有名な保養地が並んでいます。たとえば、ベルリンとフランクフルト（オーデル）の間にある、シャルミュッツェル湖畔のバート・ザーロウやドレスデン近郊のバート・シャングアウなどです。さらに、ポーランドのバルト海保養地コウオブジェク（コルベルク）とウーゼドム島のシフィノウイシチェ（シュヴィネミュンデ）、チェコの温泉地であるマリアーンスケー・ラーズニェ（マリーエンバート）やカルロビ・バリ（カールスバート）、フランティシュコヴィ・ラーズニェ（フランツェンスバート）などは、それぞれの地方の伝統的な保養地になっています。

旅のヒント

国境をまたいで自然体験が可能な場所としては、ポーランド領にまで広がるバート・ムスカウのムスカウ公園（ピュックラー＝ムスカウ侯公園とも）やオーデル＝ナイセ・サイクリングロード、バンシンからポーランド領シフィノウイシチェまで続くウーゼドム島の海岸プロムナードなどが挙げられます。



-
- 1 ムスカウ公園の新宮殿、バート・ムスカウ
 - 2 海水浴場建築、バンシン / 3 ヨハニス教会、ツィッタウ
-

さらなる情報は：

www.germany.travel/usedom



さらなる情報は：

www.germany.travel/badmuskau



さらなる情報は：

www.germany.travel/goerlitz



写真 (ページ、写真番号) :

Autostadt GmbH / Lars Landmann (66) | Berlin Wall Exhibition (14) | Berliner Mauer Graffiti / visitBerlin.de / Koch (13, 3) | Bremerhaven Touristik (63) | Bund Grünes Band / Helmut-Schlumprecht (45, 2) | C. Beer (96, 3) | CentrO (77, 4) | Chic Outlet Shopping (105, 2) | Daniel Hölzel (36, 1) | Dessau-Roßlau / Wolfgang Große (32, 2) | Deutsche Zentrale für Tourismus e.V. (5) | Deutsche Zentrale für Tourismus e.V. / Andreas Antoni, Design & Systemtechnik (20, 2) | Deutsche Zentrale für Tourismus e.V. / Andrew Cowin (49, 3) | Deutsche Zentrale für Tourismus e.V. / Colorvision, Hans R. Uthoff (56, 1) | Deutsche Zentrale für Tourismus e.V. / Dipl.-Fotograf Ralf Brunner (60, 1) | Deutsche Zentrale für Tourismus e.V. / Eichberger, Eric (69, 4) | Deutsche Zentrale für Tourismus e.V. / Fotografie J. A. Fischer (13, 5 / 29, 3) | Deutsche Zentrale für Tourismus e.V. / Torsten Krüger (62 / 64, 1 / 64, 2) | Deutsche Zentrale für Tourismus e.V. / Hans Peter Merten (4) | Deutsches Auswandererhaus / Werner Huthmacher (64, 3) | Dirk Wiedlein (15 / 16, 1 / 17, 5 / 18, 5 / 46 / 47 / 48, 1 / 49, 2 / 50 / 52, 1 / 52, 2 / 52, 4 / 54 / 64, 4 / 68, 1 / 69, 3 / 70 / 72, 4 / 74 / 84, 3 / 86 / 88, 1 / 90 / 92, 1) | ELBE&FLUT / Heinz-Joachim Hettchen (58) | Elztalhotel / Foto Fouad Vollmer (96, 1) | Europa-Park (82 / 83 / 85, 4 / 84, 2) | Foto Heckel, Bad Winsheim (94) | Fotolia / Goran Bogicevic (28, 1) | Fotolia / jrmedien_de (13, 2) | Fotolia / Alterfalter (43, 1) | Fotolia / berlinphotos030 (12, 1) | Fotolia / contrastwerkstatt (79) | Fotolia / Daniel Hohlfeld (56, 4) | Fotolia / elxeneize (17, 4) | Fotolia / Ezio Gutzemberg (42) | Fotolia / Friedberg (27 / 53, 6) | Fotolia / Ghotz (100, 1) | Fotolia / g-konzept.de (56, 3) | Fotolia / goodluz (11) | Fotolia / hecht7 (109, 3) | Fotolia / Heino Richter (41, 3) | Fotolia / Ingo Bartussek (103) | Fotolia / lu-photo (3) | Fotolia / Miredi (35) | Fotolia / mojolo (72, 2) | Fotolia / Norbert Dörnbach (56, 5) | Fotolia / Rolandst (25, 3) | Fotolia / sborisov (8) | Fotolia / Sergej Borzov (21, 3) | Fotolia / T. Linack (108, 1) | Fotolia / twoandonebuilding (36, 3) | Fotolia / Wieselpixx (100, 2) | Fotolia / wolfgangstaudt (13, 4) | Fotolia / World travel images (52, 5) | Füssen Tourismus und Marketing / guenterstandl.de (101, 3) | Georg Dahlhoff (81, 4) | getty images / Hauke Dressler (38) | getty images / Konrad Wothe (40, 1) | getty images / Michele Falzone (98) | getty images / pidjoe (91) | gettyimages/sodapixsodapix (40, 2) | GONDWANA—Das Praehistorium, www.gondwana.de (88, 3) | Grafenschaft Bentheim Tourismus / R. Schubert (44, 3) | guenterstandl.de (95) | Gutenberg-Museum (80, 2) | Herzog & de Meuron (60, 3) | IMG – Investitions- und Marketinggesellschaft Sachsen-Anhalt mbH (68, 2) | IMG – Investitions- und Marketinggesellschaft Sachsen-Anhalt mbH / Michael Bader (33, 4) | JR Photography (60, 4) | Juraj Lipták (33, 3) | Karl-Heinz Laube (34) | Klassik Stiftung Weimar / Jens Hauspurg (33, 5) | Koelnmesse GmbH (28, 2) | Konzept Stefan Sammet (102) | Kurverwaltung Göhren (96, 2) | Landeshauptstadt Dresden, Amt für Wirtschaftsförderung / Sylvio Dittrich (20, 1) | Deutsche Zentrale für Tourismus e.V. / Gianluca Santoni (17, 3) | Leipzig Tourismus und Marketing GmbH, Foto Michael Bader (24, 1) | Leipzig Tourismus und Marketing GmbH, Foto: Schmidt (25, 4) | LTM / Punctum (Schmidt) (22 / 23) | MEISSEN (104, 1) | Museum Folkwang (77, 3) | N.W._pixelio.de (60, 3) | nestlers.com (36, 2) | Frank Neumann (109, 2) | Neustadt a.d. Weinstraße, Tourist, Kongress und Saalbau GmbH (80, 3) | Notenspur-Förderverein e.V. / Foto Dr. Elke Leinhoß (25, 5) | Peter Becker (39) | pixelio.de / Dieter Schütz (76, 2) | Regio Augsburg Tourismus GmbH (49, 4) | Rheinland-Pfalz Tourismus / Dominik Ketz (80, 1) | Sabine Wenzel (106) | shutterstock.com / Edler von Rabenstein (56, 2) | Staatliche Kunstsammlungen Dresden / David Brandt, 2010 (21, 4) | Staatsgalerie Stuttgart (84, 1) | Stadtarchiv Ulm, Ulm / Neu-Ulm Touristik GmbH (93, 3) | Stefan Eberstadt, München: Rucksack House, 2002 / 04 / Claus Bach (26) | Tourismus Zentrale Saarland GmbH (88, 2 / 88, 4) | Tourismus Zentrale Wismar (52, 3) | Tourismus+Congress GmbH Frankfurt am Main (72, 3 / 72, 1) | Tourismusverband Lausitzer Seenland e.V. (24, 2) | Tourist- Info Eging / Hobelsberger, Lilo (93, 2) | Vintothek BASF – The Chemical Company (78) | visitBerlin.de / Scholvien (16, 2) | www.bilderbuch-berlin.de (10) | Yvonne Tenschert, 2009, Stiftung Bauhaus Dessau (30 / 32, 1)

企画:

justZarges GmbH
Carla Zarges, Miriam Brümmer
www.just-zarges.de

印刷:

Druckerei Hassmüller
Graphische Betriebe GmbH & Co. KG
www.hassmueller.de



Published by:

German National Tourist Board (GNTB)
Beethovenstraße 69
60325 Frankfurt/Main
www.germany.travel

Supported by:



on the basis of a decision
by the German Bundestag

Facebook: www.facebook.com/GermanyTravelDestination

Twitter: twitter.com/GermanyTourism

Youtube: <http://www.youtube.com/germanytourism>



25

25

ドイツ観光局 (GNTB)

Beethovenstraße 69

D-60325 Frankfurt am Main

Tel. + 49 (0)69 97464-0

Fax + 49 (0)69 751903

info@germany.travel

www.germany.travel

